

私の工夫

みんなで伸ばそう
児童の学力
基礎・基本の定着を目指して

倉敷市立第四福田小学校

指導教諭 畠中 美和

※所属・職名は令和6年3月時点



1 はじめに

本校は、児童数約600人で、支援学級4学級、各学年2〜4学級の全22学級である。担任をしている教員の担任経験年数は、1年未満が3人、5年未満が5人という、経験の浅い教員が全体の3分の1ほどを占めている。

そのような環境の中で、児童の学力を伸ばすためには、「児童に基礎的・基本的な力を定着させること」「教員の授業力を上げること」「家庭への協力を呼び掛けること」が必要であると考え、いろいろな取組を行った。

2 中学校区の取組

中学校1校、小学校2校で同じ時期に同じ取組を行った。

①家庭学習がんばり(KGG)週間

中学校の中間・期末試験の時期に合わせて、家庭での過ごし方を見直す週間を設けた。約一週間、宿題やメディアについて、がんばりカードに記録をしていく。

児童の記録を基に、学年や学級の傾向を分析することで、宿題の量を調節したり、個別に、学習の仕方について指導したりすることに役立つ。

次の300週間は、がんばりカードの裏に、前回の記録や、家庭学習のポイントなどを載せ、保護者に見てもらえるようにした。

日	5日(木)	6日(金)	7日(土)	8日(日)	9日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)	13日(金)	合計
1	宿題をした。									〇の紙
2	自主学習をした。									〇の紙
3	家庭学習をした時間(時間記入)									分
4	次の日の準備をした。									〇の紙
5	メディアタイム									A: 〇 B: 〇 C: 〇

保護者様

【5月と6月のKGGの結果】
1日の勉強時間の平均(土日を含む)

	5月	6月
1年生	2.2, 6分	2.2, 6分
2年生	2.9, 1分	2.9, 7分
3年生	3.1, 0分	4.2, 8分
4年生	3.2, 2分	5.0, 0分
5年生	3.9, 5分	5.3, 8分
6年生	5.1, 5分	6.3, 1分

ノーマディアデーの取組時間の平均

	5月	6月
1年生	1.7, 8分	2.5, 1分
2年生	2.7, 8分	2.1, 8分
3年生	3.3, 5分	2.3, 3分
4年生	3.9, 5分	4.3, 8分
5年生	4.4, 7分	3.7, 4分
6年生	4.2, 0分	5.2, 8分

ノーマディアデーの取組時間が学年によって様々です。子どもたちどのように過ごしたか聞いてみると、

- ・自主学習をする。
- ・家族でランプやボードゲームをする。
- ・お菓子作りや工作をする。
- ・運動をする。

などがありました。ご家庭でもノーマディアデーの時間を工夫してください。感謝しています。今回のノーマディアデーの参考にしてください。

メディアの時間を調整して充実した時間が過ごせるようにしていきたいです。

ただ、また学年の目標時間に達していない学年もあります。1日の目標の勉強時間は、10×学年+10分です!!

お子さんは、学年に応じた時間、家庭で学習することができますか?
まずは、毎日、宿題・自主学習をする習慣を身に付けられるようにしていきます。

家庭学習がんばりカード

3 学校全体の取組

①九九検定

9月9日を九九の日と決め、かけ算九九の計算テストを行った。テスト前の一週間は、九九が苦手な児童が、いろいろな先生に九九の暗唱を聞いてもらえるように、時間と場所を設定した。朝学習の時間には、全校一斉に九九の問題に取り組んだ。まだ、かけ算を習っていない学年は、たし算やひき算の計算に挑戦した。

6年生と中学校の1・2年生を対象に、基礎・基本的な問題(都道府県・四則計算・漢字などの)20問に挑戦した。約一週間、練習をし、最終日の点数を競った。一週間の練習を通して、出てくる問題が分かっているので、どの児童にとっても、挑戦しやすく、努力した分、成果として実感することができた。小学生が中学生よりも平均点が良いこともあり、小学生にとっても、中学生にとってもよい刺激になった。

②基礎・基本力コンクール 学期に一回ずつ、小学校の5・

三分間で、解くことができた問題数によって、級を設定していたので、特級となった児童は、校長に表彰してもらったり、九九名人の証となるカードを名札に付けたりした。そして、全児童にも、記録証を渡した。

家庭の協力が得られにくい児童にとつて、この一週間は、九九を聞いてもらえるよい機会となった。一週間、集中して取り組みことで、どの児童も記録を伸ばすことができた。児童にとつて、効果があったため、年に二回、行うことになった。



九九名人の証

② 校内掲示

校内アンケートから、漢字に苦手意識をもっている児童が多くいることが分かった。そこで、季節に関する言葉や、児童がテーマに合った漢字を見付けて書いたもの

などを掲示した。廊下を通るときに、掲示物の前で立ち止まって見ている児童の姿が見られるようになった。



廊下掲示

4 研究主任・学力向上担当としての取組

① ぐんぐんコーナー

給食時間のお昼の放送を通して、児童から募集した学習に関する悩み相談やよい児童の紹介、学習に向かう姿勢や問題を解くためのコツなどについて放送した。1年生から6年生までが理解できるように、そして、押し付けられている

ような感覚にならないように、なるべく難しい言葉を使わず、クイズをしている感覚で見られるように工夫した。

【放送した内容】

- ・学習についての悩みを募集
- ・誘惑に負けずに勉強する方法（児童から募集したものの紹介）
- ・計算が速い児童の紹介
- ・長文読解のこつ

児童から、「楽しい」「次は、いつあるの」などの感想をよく聞くので、楽しみにしてこれていることが分かる。児童が、自分の考えを投稿するスタイルも、関心をもって聞くことができる一因と考えられる。

くすの木 さん
勉強した時間だけ
ゲームができる。

目玉パッチリ夫 さん
スマホの画面を
きれいな物や
にがてな物の
画像にする。

ぐんぐんコーナー放送の一部（児童からのアイデア紹介）

② ミニ研修

終礼の時間を使って、5分程度のミニ研修を繰り返した。公開授業の単元について、少しずつ、全教職員で教材研究をした。例えば、初めは、教材を読むだけ、次は、発問についてだけなど、少しずつ取り扱った。その単元を指導したことのない教員や、読んだことすらない教員もいたため、ミニ研修を通して、自分事として、公開授業を見たり、協議に参加したりすることができた。

5 おわりに

一人だけの努力や、一年間だけの取組では、児童の学力を伸ばすことはできない。教員が丸となつて取り組んでいることが、児童の力につながってきている。研究主任・学力向上担当として、私がしてきたことは、アイデアを出すことと、教員や児童に呼び掛けることぐらいだったが、その積み重ねが、学力向上につながると信じ、今後も、精進していきたい。